

第二十六回

あきの螢能



能 巴 替装束
狂言 附子

(浦田保親)
(茂山七五三)



観世流能楽師 浦田 保親

写真提供/金の星写真場 サウンド写真工房 関西舞合芸術研究所

とき 平成30年6月16日(土)

《開場》午後4時30分

《献能》午後6時30分

《呈茶》午後4時 (無料・先着400名)

ところ 阿紀神社 能舞台 (雨天=宇陀市文化会館)
大宇陀追問 ※雨天の場合、螢は展示のみとなります。

《入場料》全席自由席 ■前売券 大人 5,000円 ■当日券 大人 6,000円

(当日券の有無、雨天の場合のお問い合わせは開催日の午前9時以降に
TEL 0745-88-9049 までお問い合わせください。)

チケット取扱所
宇陀市役所商工観光課・宇陀市文化会館・道の駅宇陀路大宇陀・宇陀市観光案内所「うだ観処」



チケットに関するお問い合わせ/あきの螢能保存会事務局

TEL0745-82-2457

仕舞

国井田

栖筒村

地謡

ご挨拶

狂言 附子(ぶす)

太郎冠者
次郎冠者
主人

休憩

解説

能 巴

替装束(ともえ・かえししょうぞく)
里女
巴御前の霊
旅僧
粟津の里人

笛
小鼓
大鼓
後見

地謡

浦田 親良
浦田 保浩
大江 信行

越賀 隆之
橋本 光史
深野 貴彦
田中 隆夫

茂山七五三
茂山 宗彦
井口 竜也

島田 洋海

大江 信行

浦田 保親
小林 努
島田 洋海

左鴻 泰弘
曾和 鼓堂
石井 保彦

深野新次郎
大江 信行
深野 貴彦

浦田 保浩
越賀 隆之
橋本 光史
齊藤 信輔
浦田 親良
田中 隆夫

能

巴 (ともえ)

木曾の山里の僧が、都へ上る途中、近江国(滋賀県)粟津の原までやって来ます。そこへ一人の里女が現れ、とある松の木陰の社に参拝しながら涙を流しています。不審に思った僧が言葉かけると、女は、行教和尚も宇佐八幡へ詣でられた時、「何ごとのおはしますとは知らねども、忝(かたじけ)なさには涙こぼる」と詠まれたように、神社の前で涙を流すこととは不思議ではないといい、ここはあなたと故郷を同じくする木曾義仲が神として祀られているところであるから、その霊を慰めてほしいと頼みます。そして実は自分も亡者であるといい残して、夕暮の草陰にかくれてしまいます。(中人) 旅僧は、里の男に、義仲の最期と巴御前のことを詳しく聞き、同国の縁と思い、一夜をここで明かすべく読経し、亡き人の跡を弔います。すると、先刻の女が、長刀をもち甲冑姿で現れ、自分は巴という女武者であると名のります。そして、義仲の討死の様と、その時の自分の奮戦ぶりを物語ります。しかし義仲の遺言により一緒に死ぬことが許されず、形見の品をもって一人落ちのびたが、心残りが成仏のさまたげになっているので、その執心を晴らしてほしいと回向を願って消え失せます。

修羅場の中でも、女武者を主人公とした唯一の能で、その点でも異色作です。シテの巴は愛する男が死んだ場所から亡魂が立ち去れず、一緒に死ねなかつた執念―恋慕の情のため成仏しえないという設定は特異です。したがって、この曲は修羅場とは言い条、幽玄の情緒を多分に含んでおり、雄々しい戦物語の底に流れる女の悲愁といったものが描き出されています。

※場内でのテープ録音・写真撮影・ビデオ録画は許可が必要に付、お断りいたします。開演中は、携帯電話の電源はお切り下さい。ご協力の程よろしくお願いいたします。

※開演前、

四時三十分 箏曲 菊公陽歌社中

がございませう。

あきの螢能保存会

平成四年、旧大宇陀町制五十周年記念事業に協賛して奈良浦声会の大宇陀メンバーが主体となり七十年ぶりに新能を開催しました。阿紀神社能舞台の保存に協力し新能の文化遺産を継承することを目的として平成五年四月に結成されました。

ただいま会員を募集しております。詳しくはあきの螢能保存会事務局までお問い合わせ下さい。なお、今回の収益は能舞台保存費用に充てさせていただきます。

会場周辺地図



交通 ●電車・バス 近鉄大阪線榛原駅下車⇒奈良交通バス大宇陀行乗車(約20分)⇒大宇陀高校下車⇒徒歩(約5分) 阿紀神社※雨天の場合は大宇陀下車すぐ宇陀市文化会館
●自動車 名阪国道針インター⇒約40分 国道369号線を宇陀市方面へ 国道370号線⇒国道166号線